

**第6次**  
**ダイハツ環境取組みプラン**  
**2016～2020年度**



## 基本理念

私たちダイハツグループは、クルマづくりにおける企画から廃棄までの全ての段階において、環境負荷の低減と環境問題の改善に積極的に取組み、持続可能な社会を目指します。

また、その取組み内容を国内外のステークホルダーと共有し、連携して社会貢献に取り組めます。

※この取組みは、トヨタグループの一員として「トヨタ地球環境憲章」を共有し、推進します。

分野	取組み項目	分類 <sup>※1</sup>	具体的な実施事項●目標
開発・設計	車両CO <sub>2</sub> 削減/燃費性能の向上	低炭素	各国・各地域燃費基準の確実な達成 ①国内 ●2020年燃費基準に向けた継続的な燃費向上の推進 ●軽自動車はトップクラスの燃費性能を目指し開発 ②海外 ●ダイハツの燃費向上技術を着実に導入
	再生可能資源・リサイクル材活用による樹脂部品からのCO <sub>2</sub> 削減		樹脂リサイクル・部品開発技術でCO <sub>2</sub> 削減に貢献 ●バイオ100%樹脂素材の実現に向けた技術確立 ●ASR <sup>※2</sup> リサイクル材の実用化に向けた技術確立
	希少資源を使用しない技術開発の継続推進	循環	●貴金属を使わない液体燃料電池の開発 ●排出ガス浄化触媒の貴金属使用量の大幅低減
	資源回収しやすい「エコデザインカー」の普及		易解体設計の拡大・モデル化で資源循環促進に貢献 ●エコデザイン指標(基準・内容など)の選定
	クリーンエネルギー車開発の推進	低炭素	●非炭素液体燃料から直接発電し、CO <sub>2</sub> を排出しない燃料電池の開発
	各国・各地域の都市大気環境改善に資する排出ガス低減	自然共生	●各国・各地域の都市環境改善に資する低排出ガス車を着実に導入
	製品開発における環境マネジメントの推進(Eco-VAS) <sup>※3</sup>	マネジメント	●開発段階での車両環境アセスメントシステム(Eco-VAS)による環境目標管理の着実な推進

※1 環境取組みプラン4つの項目  
 低炭素 : 「低炭素型社会の構築」  
 循環 : 「循環型社会の構築」  
 自然共生 : 「環境保全と自然共生社会の構築」  
 マネジメント : 「環境経営(マネジメント)」

※2 Automobile Shredder Residue (自動車シュレッダーダスト)

※3 Eco-Vehicle Assessment system (トヨタ自動車株式会社が導入した環境評価システム)

分野	取組み項目	分類	具体的な実施事項 ● 目標																				
生産・物流 (生産)	効率的な生産・物流活動 による環境負荷の低減	生産CO <sub>2</sub> 排出量	●CO <sub>2</sub> 排出量の低減 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>基準年度</th> <th colspan="2">目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">国内</td> <td rowspan="2">ダイハツ生産拠点※4</td> <td rowspan="2">2001年度比</td> <td>台当り排出量</td> <td>Δ34%</td> </tr> <tr> <td>排出量</td> <td>Δ19%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">海外</td> <td>グローバル※5</td> <td rowspan="2">個社毎に設定</td> <td>台当り排出量</td> <td>Δ38%</td> </tr> <tr> <td>各社</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	基準年度	目標(2020年度)		国内	ダイハツ生産拠点※4	2001年度比	台当り排出量	Δ34%	排出量	Δ19%	海外	グローバル※5	個社毎に設定	台当り排出量	Δ38%	各社		
		地域	対象	基準年度	目標(2020年度)																		
		国内	ダイハツ生産拠点※4	2001年度比	台当り排出量	Δ34%																	
					排出量	Δ19%																	
海外	グローバル※5	個社毎に設定	台当り排出量	Δ38%																			
	各社																						
生産 廃棄物 排出量	循環型	●廃棄物排出量の低減 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>基準年度</th> <th colspan="2">目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">国内</td> <td>ダイハツ生産拠点</td> <td rowspan="2">2001年度比</td> <td>台当り排出量</td> <td>Δ55%</td> </tr> <tr> <td>国内連結※6</td> <td>Δ41%</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>各社</td> <td>個社毎に設定</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	基準年度	目標(2020年度)		国内	ダイハツ生産拠点	2001年度比	台当り排出量	Δ55%	国内連結※6	Δ41%	海外	各社	個社毎に設定						
地域	対象	基準年度	目標(2020年度)																				
国内	ダイハツ生産拠点	2001年度比	台当り排出量	Δ55%																			
	国内連結※6		Δ41%																				
海外	各社	個社毎に設定																					
VOC 排出量	自然共生	●VOC排出量の低減 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th colspan="2">目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内</td> <td>ダイハツ生産拠点</td> <td rowspan="2">ボデー塗装</td> <td>25g/m<sup>2</sup>以下</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>各社</td> <td>個社毎に設定</td> </tr> <tr> <td>共通</td> <td colspan="3">VOC排出総量の管理/低減活動の推進</td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	目標(2020年度)		国内	ダイハツ生産拠点	ボデー塗装	25g/m <sup>2</sup> 以下	海外	各社	個社毎に設定	共通	VOC排出総量の管理/低減活動の推進								
地域	対象	目標(2020年度)																					
国内	ダイハツ生産拠点	ボデー塗装	25g/m <sup>2</sup> 以下																				
海外	各社		個社毎に設定																				
共通	VOC排出総量の管理/低減活動の推進																						
水使用量	循環	●水使用量の管理 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内</td> <td>ダイハツ生産拠点</td> <td>使用量管理</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>各社</td> <td>個社毎に設定</td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	目標(2020年度)	国内	ダイハツ生産拠点	使用量管理	海外	各社	個社毎に設定												
地域	対象	目標(2020年度)																					
国内	ダイハツ生産拠点	使用量管理																					
海外	各社	個社毎に設定																					
生産・物流 (物流)		物流CO <sub>2</sub> 排出量	●物流CO <sub>2</sub> 排出量の低減 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>基準年度</th> <th colspan="2">目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内</td> <td>ダイハツ生産拠点</td> <td>2012年度比</td> <td>輸送量当り排出量</td> <td>Δ11%</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>各社</td> <td>個社毎に設定</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	基準年度	目標(2020年度)		国内	ダイハツ生産拠点	2012年度比	輸送量当り排出量	Δ11%	海外	各社	個社毎に設定							
		地域	対象	基準年度	目標(2020年度)																		
国内	ダイハツ生産拠点	2012年度比	輸送量当り排出量	Δ11%																			
海外	各社	個社毎に設定																					
梱包包装 資材 使用量	循環	●梱包包装資材使用量の低減 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>基準年度</th> <th colspan="2">目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内</td> <td>ダイハツ生産拠点</td> <td>2012年度比</td> <td>容積当り使用量</td> <td>Δ8%</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>各社</td> <td>個社毎に設定</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	基準年度	目標(2020年度)		国内	ダイハツ生産拠点	2012年度比	容積当り使用量	Δ8%	海外	各社	個社毎に設定								
地域	対象	基準年度	目標(2020年度)																				
国内	ダイハツ生産拠点	2012年度比	容積当り使用量	Δ8%																			
海外	各社	個社毎に設定																					
社会との 連携	日本で培った 使用済自動車適正処理・再資源化 技術による国際貢献	循環	●各種情報を収集することで、各国リサイクル関連法規に遅滞なく 対応できるように準備																				
	事業活動と生息域・地域をつなぐ 自然保全活動の推進	自然共生	●自治体・地域との連携も含め、生物生息域グリーンベルトを 拡大する取組みを推進																				
	グローバルなエコドライブ普及推進	低炭素	●ダイハツ本体・海外事業体にて社内外でエコドライブ推進																				
	使用済自動車資源のリサイクルシステム の展開とエネルギーインフラへの貢献	循環	「リサイクル技術」で資源循環・エネルギー問題に貢献 ●国内における樹脂リサイクルの継続と新技術の開発																				
	新しい材料の資源回収に向けた活動の 推進		●リサイクルし易い材料の使用推進 ●樹脂外板の適正処理への仕組み構築																				
販売	効率的な販売活動による 環境負荷の低減	低炭素	①CO <sub>2</sub> 削減 ●ショールーム・事務所・サービスショップを含めた 省エネ活動の推進 ●販売会社CO <sub>2</sub> 排出量の低減 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>基準年度</th> <th colspan="2">目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内</td> <td>販売会社</td> <td>2015年度目標</td> <td>原単位</td> <td>Δ5%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	対象	基準年度	目標(2020年度)		国内	販売会社	2015年度目標	原単位	Δ5%										
			地域	対象	基準年度	目標(2020年度)																	
国内	販売会社	2015年度目標	原単位	Δ5%																			

※4 ダイハツ工業(株)及びダイハツ九州(株)  
 ※5 ダイハツ工業(株)及びその国内子会社と海外子会社  
 ※6 ダイハツ工業(株)及びその国内生産子会社

分野	取組み項目	分類	具体的な実施事項●目標
社会貢献	各地域の事業所から地域住民・青少年への環境教育支援による貢献の継続	自然共生	各事業所やイベントでの環境教育による貢献 ①国内 ●工場の森など、事業所の緑やビオトープを活用した地域住民・青少年への教育 ②海外 ●各地域の実情に合わせて行動目標を設定し推進
	各地域に根差した環境保全・生物多様性保全活動への貢献		生物多様性ガイドラインをオールトヨタで共有し、グローバル各地域の様々なニーズに応じた環境保全・生物多様性保全を各地域との連携で推進 ●オールトヨタの活動共有 内容の進化・協働などを通じた活動強化
	新資源創出の実用化研究		●企業として社会貢献活動の重点である環境分野において環境課題の解決に寄与するプロジェクトの助成を実施
	CO <sub>2</sub> ゼロに向けた創エネ技術の開発  社有林の森林保全活動を活かした森林資源の循環利用の推進	低炭素	●空気・水・太陽光エネルギーなどから常温常圧下で液体燃料を合成する基礎技術の開発 ●未利用エネルギー(工場内排熱・小水力・バイオ材料など)を利用したエネルギー回収・発電技術の開発 ●都市緑化事業やグループ保有技術を通じた、温暖化・気候変動への適応貢献 ●ヒートアイランド対応(壁面緑化・高性能遮光塗料の普及拡大)
マネジメント	連結環境マネジメントの強化推進	マネジメント	●国内外における各種環境活動の充実による各国・各地域でトップレベルの環境パフォーマンス(CO <sub>2</sub> ・水など)確保に向けた活動の強化 ●各国・各地域の環境法令遵守と環境リスク未然防止活動の徹底強化 ●各国・各地域の法規動向を睨んだ、製品化学物質管理の充実
	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進		●仕入先における遵法対応要請 ●納入される部品・原材料・副資材・生産設備などに含まれる環境負荷物質の管理充実・自主的な環境パフォーマンス(CO <sub>2</sub> 排出量・水使用量など)向上活動の要請
	販売会社と連携した環境負荷低減		●ダイハツ販売会社環境認定制度の徹底による環境取組みの推進と強化 ●環境管理充実による環境パフォーマンス向上
	グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化		従業員教育の継続・切れ目のない情報発信による環境保全意識の社内啓発 ①日本 ●職層別教育の継続 ●昇格者・新入社員を対象とした職層別教育プログラムの策定・実施 ●地球環境月間での環境啓発の継続 ②海外 ●従業員への環境教育の実施 ●キーパーソンを対象とした教育実施
	環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実		各国・各地域での ●製品環境技術情報提供の一層の充実 ●レポートの発行継続とさらなる内容充実 ●環境コミュニケーション活動の充実